



14号 令和4年8月25日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

# 校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠

## この2学期、やり切りたいにと③

### 授業等における **limit & shake & confirm** (LSC) の日常化

「limit & shake & confirm (LSC)」・・・校長の造語

#### 1なぜ、「limit (制限する)」なのか？

<全国学力テストから見えた課題>

- 「『2つ選びなさい』とされているのに1つしか選んでいない」
- 「『全員の希望が1つは通る遊びを選びなさい。』とされているのに、2つ通る遊びを選んでいる」等

<改善を図るために>

- 「**limit (制限)**」を満たさなければ正答とは言えない発問をする。又は出題をする。

<例えば>

- 文字数の制限, キーワードを使って回答するという制限, 数の制限・・・

#### 2なぜ「shake (ゆさぶる)」なのか？

<全国学力テストから見えた課題>

- 「『およその数』はいつでも四捨五入で答えればよいと思い込んでいる」
- 「飲み物の量が2分の1になると、果汁の割合も2分の1になると思い込んでいる」
- 「たまたま目の前に△の枠があるというだけで、△の光をねらった壁に当てると安易に判断している」

<改善を図るために>

- 既習の知識を単純に当てはめるだけでは正答にはならない課題を与える。
- 「それでよいのか？」という**揺さぶり**の声かけができるような、いわば、**ひっかかりやすい課題**を与える。

#### 3なぜ、「confirm (確かめる)」なのか？

<全国学力テストから見えた課題>

- 「2」の課題と同じ

<改善を図るために>

- 理解したレベルで終結させないように。→**確かめさせる**。
- 実験させる。実証させる。実体験させる。家庭学習につなぐ。→**実感させる**。

※ 学校全体で、継続的にどんなことに取り組んでいくのか教務部で提案してください。